

## 促成栽培用いちご品種「栃木 i37 号」の育成

### 1. 成果の要約

とちおとめに比べ、収穫始期が 10 日以上早く、年内収量、総収量ともに多収で、食味は同等に優れ、萎黄病に強い耐病性を示す促成栽培用いちご新品種「栃木 i37 号」を育成した。

### 2. キーワード

育種、多収、早生性、耐病性、萎黄病

### 3. 試験のねらい

とちおとめよりも花芽分化期および収穫始期が早く、多収で、同等以上の食味を有し、優れた輸送性、日持ち性を有し、炭疽病および萎黄病に耐病性を示す促成栽培用いちご新品種を育成する。

### 4. 育成経過

平成 24 年に栃木 32 号を種子親、09-48-5 を花粉親として交配して得た実生から 12-8-6 を選抜した。平成 25 年に系統選抜試験、平成 26 年に特性検定予備試験、平成 27 年から平成 28 年に特性検定試験に供した結果、優れた特性を有すると判断されたため、平成 29 年に栃木 37 号の系統名を付して系統適応性検定試験 1 に供したところ、所内試験、現地試験のいずれにおいても高い実用性と普及性を有すると判断されたため、平成 30 年 7 月に栃木 i37 号の品種名を付して品種登録を出願した（出願公表：平成 30 年 11 月 13 日・出願番号 33245、図-1）。加えて、同年に実施した系統適応性検定試験 2 の経過を踏まえ、平成 31 年 3 月開催のいちご王国戦略会議において本品種を本県の普及品種とすることが決定された。

### 5. 特性の概要

- (1) 草姿は立性で、草勢はとちおとめに比べ強く、厳寒期の草勢低下が起こりにくい（データ略）。
- (2) ランナーの発生はよく、とちおとめよりも葉齢 2～3 枚の子苗の採苗本数が多い（表-1）。
- (3) 育苗方法にかかわらず花芽分化期、収穫始期ともに概ね 10 日以上早く、一次腋花房以降の出蕾・開花も早く、花房当たりの着花数は 8～10 花と少ない（表-2）。
- (4) 収量は、年内収量、総収量ともに多収で、総収量はとちおとめ比 120%程度と優れる（表-3）。平均一果重は 20g 程度ととちおとめよりも大きく、22g 以上の果実の発生割合が高い。また、乱形果および不受精果の発生はとちおとめよりも少ないものの、収穫始期または 3 月以降に花房第 1 花を主として先つまり果が発生しやすい（表-4）。
- (5) 果実は心臓形で、ガクの着生位置は果実に陥入し、果皮色は鮮色で、果実硬度は硬い。とちおとめに比べ糖度は同程度で酸度は低く、食味は同等に優れる（表-5、写真-2）。
- (6) 果実の着色は、厳寒期においては果実先端部からガク着生部に向かって赤味を帯びるが着色期後半の着色進度はとちおとめよりも早く、4 月以降の高温期においては果実全体が徐々に赤味を帯びる着色の様相を呈する（データ略）。
- (7) 炭疽病に対しては罹病性であるが、萎黄病に対してはアスカウェイブと同等の耐病性を示す（データ略）。

### 6. 栽培上の留意点

- (1) 花芽分化期が早いいため、本ぼの準備はとちおとめよりも 10 日～15 日ほど早めに行う。
- (2) 着花数が少ないため、育苗期の肥切れに注意し、上記と併せて適期定植を励行する。

（担当者 いちご研究所 開発研究室 大橋 隆\*）

\* 現塩谷南那須農業振興事務所

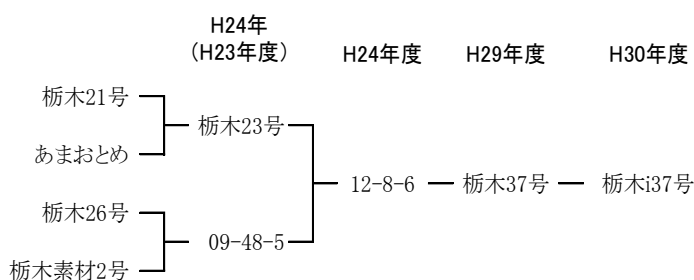


図-1 栃木 i37 号の育成経過

表-1 採苗時の葉齢別子苗発生数 (H28 年)

品種名	葉齢毎の子苗発生数					総子苗数 本・株 <sup>-1</sup>
	葉齢5枚以上	葉齢4枚	葉齢3枚	葉齢2枚	葉齢1枚	
栃木i37号	2	5	16	24	5	52
とちおとめ	3	6	8	11	7	35

表-2 開花始期、着果数、収穫始期 (H29 年)

育苗方法	品種名	開花始期 <sup>z</sup> 月/日	着花数 <sup>y</sup> 個・株 <sup>-1</sup>	収穫始期 <sup>z</sup> 月/日		
				頂花房	一次腋花房	二次腋花房
夜冷育苗	栃木i37号	9/28	8.0	10/27	12/24	1/26
	とちおとめ	10/6	18.6	11/15	1/12	2/17
セル育苗	栃木i37号	10/17	8.8	11/17	1/6	1/31
	とちおとめ	10/30	19.6	12/6	1/26	2/20

z 開花始期および収穫始期は、30%以上の株で頂花房が開花した日を示す。

y 着花数は頂花房における着花数を示す。

表-3 現地試験ほ場における収量 (H29 年)

育苗方法	品種名	可販果収量 <sup>z</sup> g・株 <sup>-1</sup>								可販果数 個・株 <sup>-1</sup>
		11月	12月	1月	2月	3月	4月	年内計(対比)	合計(対比)	
鹿沼市	栃木i37号	102	43	242	344	196	195	145 (74)	1122 (136)	47.8
	とちおとめ	98	98	128	189	185	127	196 (100)	825 (100)	58.0
下野市	栃木i37号	119	148	250	208	273	380	267 (121)	1378 (134)	59.6
	とちおとめ	116	104	183	175	223	224	220 (100)	1025 (100)	68.7
真岡市	栃木i37号	94	206	275	338	414	262	300 (135)	1589 (141)	69.9
	とちおとめ	89	134	196	211	312	187	223 (100)	1129 (100)	76.9
栃木市	栃木i37号	104	109	169	116	167	234	213 (102)	899 (123)	51.7
	とちおとめ	120	88	143	123	119	136	208 (100)	729 (100)	53.8
大田原市	栃木i37号	0	116	87	146	178	139	116 (223)	666 (99)	30.7
	とちおとめ	0	52	146	146	125	203	52 (100)	672 (100)	44.8

z 7g以上の果実を可販果とした。

表-4 一果重および果重階級別発生果数率および障害果の発生率 (H29 年)

育苗方法	品種名	1果重 <sup>z</sup> g	果重階級別果数率 <sup>y</sup> %					奇形果・障害果の発生果数率 %		
			30g以上	30-22g	22-11g	11-7g	7g未満	乱形果	不受精果	先つまり果
夜冷育苗	栃木i37号	17.9	9.4	11.2	41.2	23.0	15.0	5.1	3.8	2.1
	とちおとめ	14.3	1.7	6.4	36.8	27.0	28.2	10.4	14.7	2.0
セル育苗	栃木i37号	20.9	19.0	14.2	41.8	16.8	8.2	3.7	3.4	5.1
	とちおとめ	15.4	3.8	8.8	38.7	26.2	22.6	9.9	6.8	1.1

z 1果重は可販果(7g以上#)の平均果重を示す

y # - \$\$g (##および\$\$は数値) の表記は、\$\$以上##未満の意

表-5 果実品質 (H29 年)

育苗方法	品種名	糖度 °Brix	酸度 %	糖酸比	食味	果実硬度 gf・φ2mm <sup>-1</sup>
夜冷育苗	栃木i37号	10.1	0.5	21.3	良好	64.2
	とちおとめ	10.5	0.6	17.4	良好	55.6
セル育苗	栃木i37号	10.0	0.5	21.4	良好	65.7
	とちおとめ	10.1	0.6	17.7	良好	53.7



栃木 i37 号



とちおとめ

写真-1 栃木 i37 号の草姿



栃木 i37 号

とちおとめ

写真-2 果実の形状